

◆団体基本情報

No.	12	種別	財団法人	団体名	一般財団法人みやぎ産業交流センター		
所在地	〒983-0001 仙台市宮城野区港三丁目1番7号						
電話番号	022-254-7111		FAX番号	022-254-7110		所管 部局	経済局 企業立地課
団体ホームページ	https://www.yumemesse.or.jp						
代表者職氏名	理事長 山口 浩徳			設立年月日	平成6年8月1日		
資本金・基本財産	1,779,000 千円		市の出捐額(割合)	450,000 千円 (25.3%)			
設立目的	国際見本市その他の見本市、展示会、会議、イベント、大会等の開催及び支援等に関する事業を行うことにより、宮城県の産業振興、地域経済の発展に寄与することを目的とする						
事業概要	・見本市、展示会、会議、イベント等の企画、誘致、開催及び協力 ・みやぎ産業交流センターの指定管理事業 ・その他						
評価対象決算期	令和3年4月1日～令和4年3月31日						

◆人員等の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
②常勤役員平均年齢	62.5 歳	63.5 歳	63.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	7,175 千円	7,179 千円	7,105 千円
④職員数	9 人	9 人	9 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
⑤職員平均年齢	46.3 歳	47.2 歳	44.7 歳
⑥職員平均年間給与	5,720 千円	5,540 千円	5,661 千円

◆主要財務データ

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①当期経常増減額	△ 11,385 千円	47,094 千円	△ 16,093 千円
②当期経常外増減額	△ 1,529 千円	0 千円	0 千円
③当期一般正味財産増減額	△ 12,987 千円	46,982 千円	△ 16,245 千円
④一般正味財産期末残高	543,210 千円	590,192 千円	573,947 千円
⑤指定正味財産期末残高	1,779,000 千円	1,779,000 千円	1,779,000 千円
⑥正味財産期末残高	2,322,210 千円	2,369,192 千円	2,352,947 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①市からの補助金	0 千円	0 千円	0 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	0 千円	0 千円	0 千円
③市に対する収入依存度	0.00 %	0.00 %	0.00 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和3年度事業費
施設運営管理事業	みやぎ産業交流センターの指定管理事業	338,935 千円
展示会開催事業	展示会の主催・共催・協賛等	6,588 千円
展示会出展支援事業	展示会への出展に係る助成金の交付	909 千円
展示会活用促進事業	展示会に関する講演会・セミナー等の開催	110 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、イベント等開催件数や稼働率は前年度に比べ若干持ち直したが、低調な稼働状況にある。主催・共催イベントも多くが中止となったものの、開催制限の緩和の検討も進められており、今後もこれらイベントの再開をしていくことにより、産業振興や交流人口の増加に寄与していく。	新型コロナウイルス感染症によるイベント等の開催制限の緩和に伴い、イベントの予約・実施が徐々に感染拡大前の状況に戻りつつある。(公財) 仙台観光国際協会との連携を図り、公益性の高い事業により一層注力いただきたい。
2. 業務・組織管理	これまでの管理運営の経験や成果をこれからも事業に着実に反映させるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、コンソーシアム各社の協力を得ながら施設利用促進を図った。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、これまでの管理運営の経験を基に、より一層の効率的な組織運営をしていただくとともに、コンソーシアム各社の協力を得て施設の利用促進を図っていただきたい。
3. 財務状況	新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、年間の予約件数が伸び悩み、施設利用収入が大幅な減収となった。予約状況に応じ取消等件数も減少したため、県の協力金交付額も前年度に比べ減少し、その結果、当期経常増減が赤字となった。今年度も厳しい状況は続くと思われるが、感染対策の徹底を図りながら、イベントの誘致活動の継続や運営コストの削減に取り組んでいく。	新型コロナウイルス感染症の影響による収益の減少を的確に想定し、効率的な事業運営により、健全な財務状況を維持していただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	今後も厳しい状況は続くと思われるが、財団設立目的のための事業の充実及び堅実な財政運営と公益目的支出の確実に実施していく。併せて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の徹底を図りながら、本館・西館の一体的管理運営により、今後とも収益性や効率性を意識した運営を推進していく。	引き続き公共性の高い展示会の開催・支援事業の注力及び効率的な事業運営を展開いただくとともに、感染症対策を十分に講じた上での、運営を実施していただきたい。